令ト協議ス

第二章　業務上ノ傷害扶助

第三條　船夫業務上負傷シ若シクハ疾病ニ罹リ又ハ之ニ依リ死亡シタルトキハ労働者災害扶助法令ニ準據シ本則第四條ノ區別ニ從ヒ本人又ハ遺族若クハ船夫ノ死亡當時其ノ収入ニ依リ生計ヲ維持シタルモノヲ扶助スルモノトス

第四條　扶助ヲ分チテ左ノ七種トス

一、療　養
二、休業扶助料
三、障害扶助料
四、遺族扶助料
五、葬　祭　料
六、打切扶助料
七、歸郷旅費

第五條　船夫業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ當社ニ於テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ支給ス

第六條　船夫ノ希望又ハ醫師ノ意見ニヨリ且ツ當社ニ於テ必要ト認ムルトキハ療養ノ爲メ轉地又ハ歸郷セシムルコトアルベシ

第七條　船夫療養ノ爲メ労務ニ服スルコト能ハザルニヨリ賃銀ヲ受ケザルトキハ療養中一日ニ付キ艀船夫ハ金壹圓五拾錢ヲ支給ス

第八條　船夫ノ病院其他醫療設置アル場所ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ収入ニヨリ生計ノ維持スル者ナキ時ハ前條ノ扶助料ハ之ヲ半減ス

第九條　船夫ノ負傷又ハ疾病治癒シタルトキニ於テ身體障害存スルトキハ別表ニ掲クル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給ス

第十條　負傷、疾病治癒後引續キ同一傷件ニテ雇傭スル場合ハ前條ニヨリ扶助料ハ雇傭期間其ノ支給ヲ延期スルコトアルベシ

第十一條　船夫重大ナル過失ニ依リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ休業扶助料又ハ障害扶助料ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトアルベシ

第十二條　船夫業務上即死又ハ溺死若クハ療養期間中死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ船夫死亡當時其ノ収入ニヨリ生計ヲ維持シタル者ニ標準賃銀三百六十日分ノ遺族扶助料ヲ支給ス

第十三條　船夫死亡シタルトキハ葬祭ノ行フ遺族又ハ船夫死亡當時其ノ収入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ金參拾圓ノ葬祭料ヲ支給ス

第十四條　遺族扶助料及葬祭料ヲ受クベキ者ニ付テハ工場法施行令第十條乃至第十二條ノ規定ニ依ル船夫ガ遺言又ハ當社ニ對スル届告ニ依リ受給者ヲ指定スル場合ニハ書面ヲ當社ニ提出スルヲ要ス

第十五條　前三條ノ規定ニヨリ船夫死亡當時其ノ収入ニヨリ生計ヲ維持シタル者扶助ヲ受ケントスルトキハ遺族ノ一人又ハ繰故者三人以上ノ書面ニヨル證明アリタルヲ要ス

第十六條　療養開始後一年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セザルトキハ標準賃銀五百四十日分ノ打切扶助料ヲ支給シ以後扶助ヲ爲サザルコトアルベシ、但シ第十一條ノ場合ニ於テハ二百七十日分トス

第十七條　別表第八級以上ノ障害扶助料又ハ打切扶助料ノ受クル者扶助ヲ受ケタル日ヨリ當社ノ許可ヲ得テ十五日以内ニ歸郷スル場合ニ於テハ其ノ必要ナル旅費實費ヲ支給ス

第十八條　試傭中ノ船夫又ハ雇傭期間一年ニ滿タザル船夫ニ對シテハ本章ニ規定シタル扶助額又ハ扶助期間ノ減縮スルコトアルベシ

第十九條　當社ノ承認ヲ經テ乘船セシメタル船夫ノ家族其ノ他ニシテ作業連助中負傷シ又ハ死亡シタルトキハ本章規定ニ準シ適宜扶助スルコトアルベシ

第二十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本章ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲サザルコトアルベシ

（一）　船夫ノ退職後一年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ、但シ既ニ受ケタル扶助ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限リニアラズ、解雇前又ハ解雇後一年内ニ請求シタル扶助ノ原因タル負傷又ハ病疾ニ基キ請求スルトキハ亦同シ

（二）　扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カラ船夫ノ解職後ニ於テ再發スルトキ

第二十一條　休業扶助料ヲ除ク扶助料算出ノ標準ハ兵庫縣令ニ依ル神戸沖仲仕業組合ニ於テ施行スル標準賃金ヲ準用ス

第三章　退職給與金

第二十二條　左ノ各號ニ該當スル者ニ對シテハ下記ノ給與率ニ依リ退職給與金ヲ支給ス

一、滿五才以上ニ達シ退職シタルモノ
二、疾病、傷痍ニ依リ労務ニ服スルコト能ハザルガ爲メ退職シタルモノ
三、會社ノ業務上ノ都合ニ依リ雇傭シタルモノ
四、兵役ニ服スルタメ退職シタルモノ

退職給與金支給率

(イ)勤續滿一年ニ達シタルモノ	五十圓
(ロ)勤續滿一年以上滿五年迄壹年增ス毎ニ	武拾五圓ヲ增ス
(ハ)勤續滿五年以上滿十年迄　同	參拾圓ヲ增ス
(ニ)勤續滿十年以上滿十五年迄同	參拾五圓ヲ增ス
(ホ)勤續滿十五年以上　同	四拾五圓ヲ增ス

第二十三條　船夫業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ再ビ從來ノ業務ヲ執ルコト能ハザルガ爲メ退職シタルトキハ第九條規定ノ障害扶助料若クハ第十六條規定ノ打切扶助料並ニ前條ノ退職給與金ノ外勤續滿十年未滿ノ者ニハ五拾圓勤續滿十年以上ノ者ニハ百圓ヲ支給ス

第二十四條　船夫在職中死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ對シ左ノ區